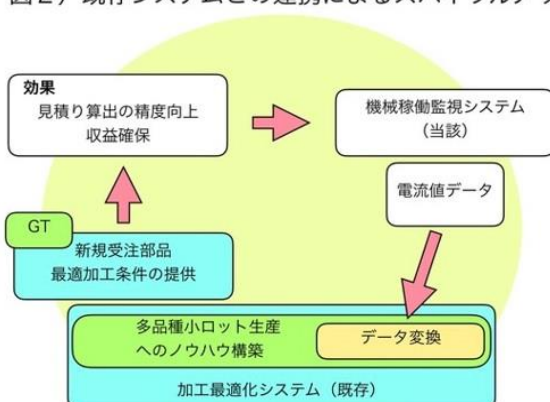




3. 効果およびメリット

【解決する経営課題】

- ①稼働率低下の要因分析による製造コスト低減
- ②低利益製品の排除による利益率の改善
- ③高利益製品の受注拡大及び拡販による集中的な営業展開による収益性の改善
- ④低コストなモニタリングデバイスの製造ノウハウの取得

【現場の困りごと】

作業日報が手書き申告制で作業者毎の申告内容にバラツキが大きく、データの信頼性が極めて低い。また多台数同時作業による多能工による製造コストの算出及び稼働状況の把握等の管理コストまで投資する余裕は無い為、本当の製造コストの把握ができていない。また利益の高い製品の把握、稼いでいる作業者への評価もできていない。製造時間の把握があいまいで製造計画の低信頼性による納期遵守の改善が図れていない。

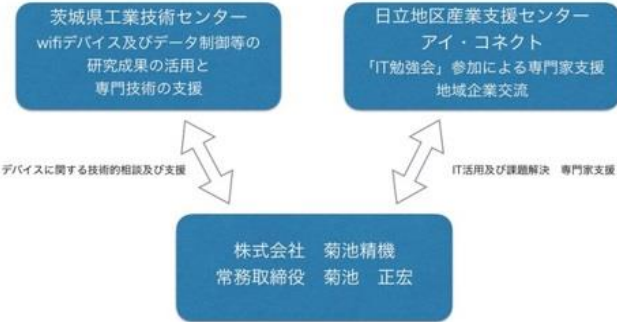
【定量的な成果】

設置時間:2時間程度(停電作業の排除)
高付加価値分野への営業強化による利益率:3%向上

表1) 事業スケジュール及び項目

		2016					2017					2018					2019				
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
デバイス開発及びテスト運用																					
1	デバイスの製作	○																			
2	モデル機種によるテスト運用	○																			
3	既存システムとの調整	○																			
4	機械稼働監視	○																			
5	モデル機種での負の付加価値の算出	○																			
6	高付加価値製品の把握		○																		
モデルショップへ運用拡大																					
7	モデルショップへの検討		○																		
8	wifi環境の見直し		○																		
9	データ収集ソフトの改良			○																	
10	モデルショップでの負の付加価値の算出			○																	
11	工程管理システムとの連携と調整				○																
12	最適化システムとの連携					○															
13	高付加価値製品の算定							○													
全機械設備への展開																					
14	大データへの対応検討								○												
15	デバイスの見直し及びVA									○											
16	個別原価及び負の付加価値の算出										○										
高付加価値分野への営業展開強化																					▶

本事業の実施体制



4. 事例紹介WebサイトのURL

5. 分類

1) ケース分類①（目的）

- ☐ 設計～開発～製造のデジタル化
- ☒ 生産工程の見える化・最適化
- ☐ 販売情報の活用～マーケティング
- ☐ データ活用によるサービス・ソリューション提供
- ☐ 組織を超えたデジタル化による企業間連携
- ☐ その他

ケース分類②（場面別）

- ☐ 開発工程
- ☐ 検査装置/道具/部品
- ☒ 設備/設備間連携/工場内生産管理
- ☐ 遠隔監視/工場間連携
- ☐ サプライチェーン/ものづくり支援
- ☐ 顧客サービス/マーケティング

2) 企業規模分類

- ☐ 小規模企業：1-20人
- ☒ 中小企業：21-300人
- ☐ それ以上：301人以上

3) 地域分類（都道府県）

6. 申請者の問い合わせ先

1) 企業・組織名

2) 住所

3) 電話番号

4) メールアドレス

5) ホームページ

6) 関連企業・組織名（複数組織での申請の場合）

以上